

仙台教区サポートセンター

福島デスクニュース

第24号 2016年8月

作成：仙台教区サポートセンター福島デスク
〒975-0001
福島県南相馬市原町区大町 2-197
fukushima.desk@gmail.com
Tel/Fax 0244-32-1531
080-5872-4447
<http://fukushimadesk.blogspot.jp/>

測定結果を共有し、日常を取り戻す 国内外から視察者



食品測定。インドネシア、マレーシア、フランスの高校生

いわき市久之浜町末続(すえつぎ)地区。人口約390人、市の最北端、双葉郡に隣接する地域である。

原発事故の際、東電福島第一原発から30キロ圏内には屋内退避指示が出された。ところが、市のバスが迎えに来て、突如避難となり、一か月後、十分な説明もなく自宅に戻ってよい、とのこと。住民は状況がつかめず、翻弄された。

「事実を知りたい」。末続地区の住民は県内他地域に先駆けて、住民主導で地区全体の土壌の放射線量、空間線量を測定することに決めた。測定結果を共有し、少しずつ、置かれている状況を理解しつつ、現在に至る。

現在も、毎週火曜日には地区集会所で食品の放射性物質測定を行っている。家庭菜園の野菜や近隣の山菜ばかりでなく、試しに測ってみようと、道端のキノコまで持ち込まれる。測定結果のデータが積み重なり、共有の資料となる。待ち時間は交流の場だ。放射線のことより、毎日の暮らしのことや季節の料理が話題になる。震災前より会話の機会が増えているそうだ。

また、住民はDシャトルで個人外部被ばく線量を測り、定期的にホールボディカウンター(WBC)検査を受け、内部被ばく線量を測っている。地区長はWBC検査に行くことを「遠足」と呼ぶ。車を用意し、できるだけ皆で一緒に行くことが大事なのだと言っている。測定結果の説明会は、年数回、福島県立医大の医師を囲んで地区集会所で開かれる。医師と患者の関係ではなく、住民同士の車座の関係が築かれている。

「夫はタケノコに目がなくて、もちろんND(不検出)のものだけれど、かなりの量を食べる。私(妻)も同じ食事なので、量は夫より少ないけれど、同じタケノコを食べた。その後、WBC検査を受け二人とも問題なし」。ゆっくりだけれど、足元から着実に固めていく。この地域に暮らしていいんだ、と納得できるようになった。食生活は震災前のように豊かになり、住民は日常を取り戻しつつある。

末続地区への見学者は多い。研究者や学生、海外からの視察者、各省庁の役人等も訪れる。受け入れの住民たちは、普段通りの質朴さだ。

なぜ、このような日常を取り戻す取り組みが福島県内各地でできなかったものか、と思う。基本的なことをしただけ、と住民は語る。個人の主義主張を乗り越え、測定と



Dシャトル(個人線量計)

交わりによって日常の穏やかさを取り戻した。

この夏、「チャレンジふくしま若い力による風評対策提案事業 Hello! FUKUSHIMA FOODS! ~海外の高校生と発信する福島のお食~」(主催 福島県、協力 福島高校、8/15-20 実施) のプログラムに参加したインドネシア、マレーシア、フランス、東京・戸山高校、福島県内の高校生等、約30人が未続地区を訪れた。広野町、楡葉町、会津若松市、伊達市を訪問し、果物農家や東電の担当者の話を聞き、福島の伝統や文化を体験した。福島に行くことをお母さんがとても心配した、とのマレーシアの高校生の分かち合いもあった。

最終日、福島高校でワークショップが開かれた。講師には、東大、福島県立医大の先生たちがそろった。海外からの高校生には予めDシャトルが送られ、自国での個人外部被ばく線量を計測していた。そしてDシャトルを装着したまま東京に集合し、ツアーに参加している。ワークショップは、高校生の分かち合いのとき、放射線の理解を深める学習の場となった。

見捨てられた地域だった。だから、測った。行政を動かすために、と未続の人々は語る。

今年も米の全量全袋検査 27年産米 10,307,119 点すべて基準値以下



早場米の収穫が始まった。そして、今年も玄米レベルでの放射性セシウムの全量全袋検査が開始された。今年最初の検査は8月24日、二本松市の農家が収穫した早場米69袋(2070キロ)。検査機にかけられたすべてが検出下限値(1キロ当たり12ベクレル)未満だった。

福島県によると、28年度は県内全体で27年度と同量の約1000万袋を検査する予定となっている。

*農業(こめ、やさい、くだもの、そば・大豆)については、「[ふくしまの恵み安全対策協議会](https://fukumegu.org/ok/contents/)」(https://fukumegu.org/ok/contents/)のサイトで、漁業(試験操業)については、「[福島県漁業協同組合連合会](http://www.fsgyoren.jf-net.ne.jp/siso/sisotop.html)」(http://www.fsgyoren.jf-net.ne.jp/siso/sisotop.html)で放射性物質検査の結果等の情報が得られる。

絶滅危惧種「ミズアオイ」再生の使者 「生物の多様性」の復活

東日本大震災の津波跡地に薄紫の花「ミズアオイ」の群生がひととき目を引く。かつては水田の雑草としてよく見られたが、除草剤の使用等によって絶滅危惧種に指定されていた。

ミズアオイの他にも、「開発」目当ての人間の活動による環境変化で長いあいだ発芽できなかった様々な埋土種子が、津波の攪乱を受けたことによりよみがえった。

津波という不幸な出来事を通して、本来の植生が再生しつつある。生物は人間より一足早く、多様性を取り戻した。ミズアオイは「再生の使者」と呼ばれ、復興に取り組む人間に希望を与えている。

